標本棚 私と虫

梅の虫

（写真家）増田　智

和歌山県みなべ町にある梅農家（てらがき農園）に仕事や生活を記録して写真展をやろうと思って通ってもう十数年になる。

二月に撮影に行くと農園に白い花が咲き乱れ心地よい香りがし、暖かい日には交配のためハチの羽音がいたるところでする。

収穫は六月がピークで雨が降ったりカンカン照りの中で梅もぎは大変だと思う。私も撮影の合間に少し体験したが、すぐ根を上げた。

南高梅は病気や害虫に弱い。黒点病、すす病、カイヨウ病などで、梅の実は見た目が悪くなる。

てらがき農園は、皮から食べる梅だから、体にできるだけよいものをと、農薬も化学肥料も使わず栽培しているので苦労が絶えない。剪定で風通しをよくしたり、体に害のないものを散布したりで病気にならないようにしている。

害虫ではコスカシバというハエのような虫の幼虫が、樹幹の中で孵化して樹木を食べて梅の木を枯らしてしまう。

対策としては、スカシバコンというフェロモン剤が入った針金状のものを枝に巻く。そうすると成虫になったオスのコスカシバは、その匂いに惑わされて農園を飛び回るメスに出会えず繁殖できない。

いたるところの枝に巻かれたスカシバコンは、今年も虫の恋路を邪魔している。梅の木が守られることを願いながら、ちょっと切なくなる。

メタセコイヤに迫る危機

（流通経済大学教授）
（茨城大学名誉教授）後藤　哲雄

葛飾区にある水元公園のメタセコイヤの並木はすばらしいとのことですが、まだ見たことはない。

二〇一五年に、韓国のメタセコイヤがハダニ(*Oligonychus metasequoiae* Kuang)の寄生で枯れているとの情報を得て、急遽、韓国に出かけました。

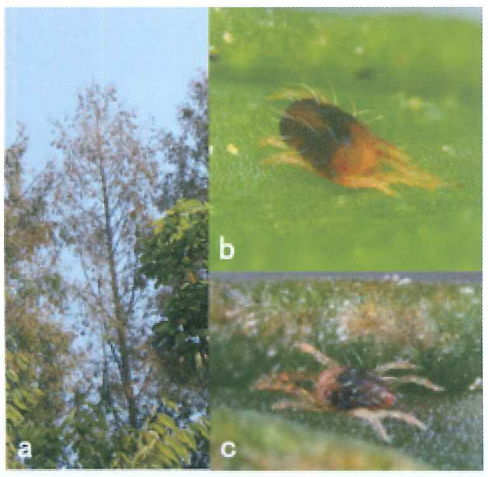
ソウルから車で二時間ほどの烏山市内の街路樹はほとんど茶褐色に変色。ソウル市内のメタセコイヤにも被害があり、また水原市や釜山市、済州島のメタセコイヤも枯れてきているとのことであった。

このような状況下、日本への上陸と被害が懸念されます。いち早い防除のため、褐変しているメタセコイヤを見かけたら、ご一報いただきたい。直ぐに駆けつけます。

被害は樹や葉の下部から先端に向かって広がり、葉裏はもちろん、葉表もひどく加害されると葉全体が茶褐色になります。

成虫は赤味を帯びた褐色で、背毛が立っていて白く見え、夏卵は白色、休眠卵は深紅のきれいなハダニです。

しかし、見た目にだまされてはいけない。無残な枯れ木の並木を見ることになりかねない。



写真は韓国烏山市における
メタセコイヤの被害とハダニ（2015. 10. 18）
a：枯死したメタセコイヤ
b：雌成虫　c：雄成虫

羽音

江戸城築城の秘話（その五）

徳川家康は江戸に入ってから亡くなるまで二十七年間、何年江戸に？

江戸文化歴史研究員　窪田　孝

天正十八年（一五九〇年）に江戸入府してから慶長十年（一六〇五年）に駿府城に隠居するまでの十五年間、本拠地は江戸であったが、幕藩体制の整備、江戸のインフラ作りは徳川秀忠にまかせ、自分は大坂豊臣政策と海外貿易の主管者として伏見を中心に忙しく飛び回った。

入府直後、本多正信がみすぼらしい江戸の館をみて「他国からの使者・来客などのため、せめて玄関まわりだけでも普請したら如何」というと、「いらざる立派だて（無用に立派にすることはない）」と言ったという。

入府翌年にはインフラを中心としたが、本格工事には至らず、準備と応急修理にとどまった。この時代は豊臣秀吉配下の五大老筆頭として上方にいることが多く、江戸在勤の譜代大名や家臣、旗本に命じた自前の課役工事であった。

文禄・慶長の役では九州名護屋城に在陣し、豊臣家臣としての「お手伝い普請」に動員された。伏見城と京都御所の普請を課せられ、江戸の工事は中断し、朝鮮出兵も開始されている。

慶長三年（一五九八年）には工事が再開され、西の丸造営工事と桜田濠開削による土砂で日比谷入江を一部埋めたて城下町を建設している。その後、江戸幕府を開き、江戸での水運の確保、飲水や塩の確保、天下普請や東北征伐、関ヶ原の戦い、城郭の普請、大坂の陣などで全国をまわり、更に故郷の駿府に退隠し大御所政治の指示をだしており、亡くなるまでの二十七年間で江戸での在府はわずか五年一ヶ月であった。

江戸入府時の江戸館（想像図）

大御所政治による船入堀の建設

糖尿病療養体験記

齊藤善治郎

現在、日本では糖尿病が強く疑われる人が約一千万人、糖尿病が疑われる人が約一千万人の合計約二千万人いると推定されている。

私は一九八七年、四十歳の時、人間ドッグで糖尿病予備軍と診断された。一泊の教育入院で合併症・食事療法・運動療法の指導を受けたが、「病気はお医者さんが治してくれる」という誤った考えを持ち、夕食は夜十時以降、酒・タバコは従来どうり続けていた。その結果、体重は一年間で8kg増加してしまった。

しかし、一九九一年、六ヶ月で体重は10kg落ち、立っているのもつらく感じ、東京の病院へ駆け込んだ。検査の結果、血糖値は四百五十mg／dlという異常値で、緊急入院することになった。この入院を機に酒・タバコを止め、「生活習慣病の代表である糖尿病の主治医は自分自身」と考え、真剣に向き合うようになった。

私の糖尿病治療は、一ヶ月に一回通院し、血糖値とヘモグロビンAlc（過去二～三ヶ月の血糖値平均）を検査し、主治医の診断を受ける。通院の間の生活は患者本人に任される。

食事療法は、毎日三食の写真を撮り、食事の内容と量を頭に叩き込んだ。

また、食品交換表（糖尿病食事療法のガイドブック）と秤を使うことを習慣化した。

運動療法は、一日八千～一万歩、歩くことを習慣化した。

薬物療法は、インスリン注射を毎日三回・二十七年間続けている。

今まで合併症（腎症からの人工透析・網膜症からの失明・神経障害そして動脈硬化からの心筋梗塞・脳梗塞）を引き起こしていない。

上記療法を「厄介者」と考えるのではなく、「日常生活の一部」と考えている。

その結果、二〇一七年東京都糖尿病協会認定の「糖尿病師範」を受賞することができた。

これからも、糖尿病を私の身体の一部と考え、仲良く付き合って行きたい。

会員図鑑

石井　龍之介

アペックス産業（株）業務部

業務部で働く二年目のホープ。日夜、現場作業で経験を積んでいる最中。

好きなことはサバイバルキャンプ。虫を食べて飢えを凌げるためタフである。先日も作業の休憩中にカブトムシやセミの話題で盛り上がっていた。もちろん食べる話だった。

入社前のストレス耐性診断では、抜群の数値だったように、ストレスフリーな性格でメンタルもタフである。好きなお酒はウィスキー。愛読書は月間ムー。

石川　諒

アペックス産業（株）業務部

平成三十年四月入社。早稲田大学政経学部を出て、どういうわけか当社にやってきた。

虫が好きで海外まで昆虫採集に行くほど。様々な業務に就いても、深く考えながら進めていく熟考派。

入社一年目にして、大型現場の管理を任され、持ち前の頭の良さと前向きな性格でなんとかこなしている。ただし、体重は10kg減ったらしい。周りの影響か、飲めなかったお酒にもチャレンジ中。

今後の成長が楽しみな期待の新人です。

触覚BOOK

けったいな生きもの（全5冊）

マイケル・ウォレック著
北村雄一訳
化学同人発行　本体各1,300円

世の中にこんな生きものがいたなんて…。ビックリの生きもののオンパレード。写真とポイントをまとめた解説付き。生物への入門書として最適な写真読み物です。

「おもしろ虫」「キメキメ鳥」「はてはてカエル」「きもかわチョウとガ」「ぴかぴか深海生物」の五冊。

どれもお勧めですが、たとえば「おもしろ虫」では、幽霊みたいなナナフシ、虹色に輝く甲虫、アリみたいなハチ、ピンク色のバッタなどがつぎつぎに登場し、なにこれ？すごい！とおもわず声が出てしまう虫たちのショータイムに、時を忘れて見入ってしまいます。

むしくいず

「問題」黄色のマスの入る数字をお答え下さい。

縦、横のどの列にも、太線で囲んだどの9マスにも1～9の数字が入ります。

	3	1				6	8	
		5	8	2	7	9		
	8	2				7	4	
8	9		1		2		6	7
5				4				9
6	2		7		9		5	3
	5	9				2	7	
		8	9	3	6	5		
	4	6				3	9	

◆応募規定　ハガキまたはファクシミリで、答え、住所、氏名、当社との関係を明記の上、ご応募ください。
〒105-0014　東京都港区芝２の23の４
アペックス産業㈱内　ＡＰＥＸ ＣＬＵＢ宛
ファクシミリ番号　03-3455-6558
令和元年８月末日（当日消印有効）
正解者の中から抽選で若干名様に記念品を差し上げます。

★前号の正解と当選者(順不同)
正解は『裸』でした。
今回の当選者は、田辺明希子様お一人でした。